

# 人斜道劍

7

2020年4月1日発行 / vol. 7 / 石巻剣道連盟広報記録部 広報誌



## 剣道との出会い

剣道を始めて60年以上になります。これまで剣道を通じて出会った方々やこれまで支えていただいた多くの方々に心から感謝しています。

私が剣道を始めたのは昭和31年小学校3年生の秋のことです。

10歳上の兄が小牛田農林高校剣道部を卒業し、実家(旧牡鹿町大谷川)で地域の小中学生を集めて剣道を教えることになったので、私も最年少で参加させてもらいました。毎週2回夜、納屋の掛け下げに百ワットの裸電球を点けて、庭の石ころを竹箒で掃き、素足での素振りからスタートしました。当時は剣道具も竹刀も手に入れるのが大変困難な時代で、竹刀は裏山の竹を切って四つに割り、先に雑巾を糸で縛って使いました。冬でも外で素足での稽古だったので、手足がかじかんで痛かったのですが、止めたいと思ったことはありませんでした。

中学校には剣道部がなかったので、地域の仲間と一緒に兄に教えてもらっていました。同級生4人の内一番下手で兄にいつも注意されていたのを覚えています。高校3年生の総体で、後輩の活躍や運も手伝って団体で決勝まで進み、前年インターハイ優勝の小牛田農林高校に敗れましたものの、準優勝したときは顧問の先生の目に光るものがありました。剣道の縁で国士館大学の剣道部に入り、選手候補になったことは1度もありませんでしたが、4年間の寮生活と朝夕の厳しい稽古が私の人生の土台になっ

ています。昭和45年、中学校社会科教員としてスタートし、北村中学校、石巻中学校、鮎川中学校、女川第一中学校で剣道部顧問をさせていただき、多くの生徒たちや保護者との出会いがあり、感動を共有できたことが一生の財産になっています。

剣道を通じて学んだことは沢山ありますが、目標を持って継続することや人を大切にすることなどは私の生きる指針になっています。現在は、私が主宰する「朝鍛会」(毎週土曜日5:30~6:30桃武館)と湯殿山道場で週2~3回稽古をし、年齢も職業も違う方々と汗を流せることが大きな喜びであり、健康の元になっています。

稽古をするときに気をつけていることがあります。1つは、自分の未熟さを自覚し、正しく真剣に稽古すること。2つ目は、相手を尊重し、楽しんで稽古すること(樂をすることではなく)。3つ目は、教えるときは良い点を見つけて褒め、多くを教え過ぎないことです。石巻剣道連盟として再発足してから7年目を迎えます。これまでの

役員や事務局の献身的な働きに敬意と感謝を表すると共に、今後、会員一人ひとりが「主体」となって、さらに発展することをご期待申し上げます。



石巻剣道連盟副会長  
木村 民男

# 令和初の剣道祭

令和最初の剣道祭が、令和2年1月26日(日)、石巻市河北総合センター(ビックバン)において盛大に開催されました。

日本剣道形と居合道の演武の後、令和元年度全日本女子学生剣道選手権大会で優勝された、「一心堂剣道」出身、明治大学3年の小松加奈選手を迎えての5人掛が行われました。剣道祭参加の小・中・高校生を代表して、5名の少年少女剣士が、あこがれの先輩の胸を借りて躍動する姿に会場が感動に包まれました。貴重な休日に剣道祭へ足を運んでいただき、地元の後輩たちに夢を与え、お手本を示していただいた小松選手、本当にありがとうございました。

その後、午前中は小学生の部と中・高校生の部に分かれ、鍊成個人戦が行われました。一本勝負で、時間が許す限り試合を繰り返す方式で行い、勝ちが多かった選手に



は素敵な記念品が渡されました。

昼食後は、小・中・高校生が一般の先生方に掛かる合同稽古を参加者全員で行った後、9人制団体戦を行いました。各地区・団体で小学生から一般まで9名でチームを編成しトーナメント戦を行いました。15チームが参加し、一本勝負という緊張感の下、各地区・団体の期待を背負い熱戦が繰り広げられました。9人制団体戦は小松選手の出身道場である「一心堂剣道」チームが連覇いたしました。準優勝は「勇翔会剣道」チーム、第3位は「湯殿山剣道」と「梅の木剣道」チームでした。次年度は3連覇がなされるのか、はたまた新たな石巻の覇者が現れるのか、楽しみが更に膨らみそうです。

申込方法等まだまだ試行錯誤の部分があり、至らない点も多々あったかと思いますが、たくさんの皆様のご協力のおかげで成功裏に終了いたしましたこと、心から感謝申し上げます。

広報記録部 戸田 俊博

## 事業部

### 鍊成大会を振り返る



11月17日(日)、第8回石巻地区少年剣道練成大会が行われました。石巻地区の小・中学生約160名の参加を得て、伝統になりつつある大会が今年度も盛大に行われました。

ご存じの通り、

大型台風19号(令和元年東日本台風)の影響で延期となった練成大会…。実施するに当たり、大変苦慮しました。毎日天気予報で台風の進路を気にしていましたが、予定をしていた10月13日には「台風直撃」となり、役員での協議の結果、延期する運びになりました。浸水、崖崩れ、停電等、通過後はかなりの被害状況でした。延期は正解でした。

延期による大会の練り直しでは、事務局長、事務局次長の両先生の機転で、新たな場所の確保ができ、開催日も決まりました。また、各団体や来賓への連絡、細かなメール配信と支えていただいたことに感謝してもしきれません。

開会式、今年度は「東北中学校剣道大会男子団体優勝」蛇田中3年「打太刀・佐々木孝都さん」と「仕太刀・佐藤勝己さん」の日本剣道形は、日々の稽古の後が見られる、大変すばらしい演武になりました。県中総体新人戦と重なり、中学生を中心に約80名の欠場となりましたが、各試合場では熱のこもった試合が展開されていました。小学生団体優勝の正心学館の皆さん、個人各部門の優勝者の皆さん、大変おめでとうございました。

次回は、宮城県警の石巻出身選手を招いた「模範基本稽古」の実施を実現させたいと考えています。今後も、未来の石巻剣道を背負って立つ子どもたちを大切にし、温かな大会を目指していきたいと思います。



結びに、大会日変更にも関わらず、大会運営・審判に携わっていただいた先生方、準備から後片付け、係としてご協力いただいた保護者の皆さんに深く感謝いたします。ありがとうございました。

事業部部会長 木村 剛美

## 指導部

令和元年度

### 指導部所管事業報告

指導部では、大きく6つの事業を所管しています。

①小学生練習会及び一般稽古会。基本的には毎月第2土曜日、広瀬小学校体育館にて実施予定ですが、本年度は(小学校の都合により)4月、6月、7月、8月、9月、11月、2月に実施しました。小学生練習会は午後6時30分から8時まで、参加者は一回平均39名でした。一般稽古会は8時から8時50分まで、参加者の1回平均は9名でした。普段稽古できない者同士が、月1回一堂に会して相互の技術向上を目指して実施しているものです。今後の一般稽古会では、昇段審査に向けての内容も盛り込んでいく予定です。会員皆様の奮っての御参加をお願いしたいと思います。

②審判講習(研修)会。会員各位の審判技術の向上、意思統一のために実施しています。本来であれば、県剣連主催の講習会にご参加いただきたいのですが、様々な事情でそちらに参加できない会員各位のために設定しています。令和元年度は、5月15日(火)の夜、午後7時から9時まで河南西中学校武道場で実施しました。参加者が15名と、非常に少ない状況でした。

③小学生学年別大会出場選手選考。前年の成績〔石巻錬成大会3位以上の入賞者、及び本大会ベスト8以上の入賞者〕で選出された児童(無条件出場者)で、出場枠が満たされない場合に実施しております。令和元年度も出場枠が満たされなかったため、参加者が多くありました。大変盛り上がった選考会になり、その成果か、本大会に出場した

児童の入賞者が今年度も数多く出ました。今後も高みを目指して日々の稽古に精進してもらいたいと思います。

④県民体育大会、⑤市郡対抗剣道大会出場者の選考。これらについては、小学生学年別大会選考と同じように、選考会を実施して決定できればよろしいのですが、現実は選手候補者が少なく、その選出に苦労しているのが実情です。

⑥日本剣道形講習会。地元出身の範士8段遠藤勝雄先生にお願いして実施してきている講習会(4回目)です。令和元年度は9月16日(日)湯殿山道場をお借りして実施しました。あいにく幾つかの行事と重なってしまい、参加者は14名と少ないものでした。しかし、細かい部分まで行き届いた指導でしたので、参加者からは大好評でした。次年度からは、4段以上としておりました参加資格を、3段以上と変更したいと考えております。「理合」を身につけるためには、稽古だけでなく、剣道形の修練も必要不可欠です。若い会員をはじめとする数多くの会員の皆様のご参加をお願いしたいと思います。

指導部部会長 安齋 雅裕



## 須江剣道スポーツ少年団

### 感謝の心で



平成30年度全日本剣道連盟少年剣道教育奨励賞を、石巻剣道連盟の推薦をいただき、受賞の栄をいただく事が出来た事は、身に余る光栄と関係者一同喜びにたえません。心より感謝申し上げます。

さて、須江剣道スポーツ少年団は、昭和61年、11名の団員と3名の指導者によって発足致しました。当時須江小

学校は、旧河南町内で一番児童数が少なく、全校で100名位だと記憶しています。少人数からの出発で、最初の数年間は団員も集まらず、又成果も挙げられませんでした。しかし地域の皆さん、学校、そして親の会の皆さんのご理解、ご協力のおかげで結成以来34年間にわたり活動を続けてまいりました。指導にあたっては、剣道を通しての人作りを目標に「素直な心」、「人を慈しむ心」、「人に感謝する心」、この3つの心の育成を目指して、日頃の稽古に取り組んでまいりました。近年、少子化や私達を取り巻く環境の多様化等の諸問題により団員が集まらず、団の維持が困難な状態にあります。

こんな時こそ、剣道を愛する皆さんと力を合わせ、結成の初心を忘れず常に感謝の気持ちを大事に頑張って参りたいと思います。

須江剣道スポーツ少年団団長 佐藤 政治

# 全日本選手権大会に参加して



令和元年11月3日、大阪で行われた第67回全日本剣道選手権大会に出場させていただきました。本大会の出場は3年ぶり3回目、現在勤務している宮城県石巻北高等学校に赴任してから初めての出場となりました。

平成30年4月に石巻北高校に異動となり、生活や仕事、そして剣道の環境も大きく変化しました。

また、石巻地区の学校関係の方々、道場の先生方や剣道家の皆様と交流させていただくこととなり、たくさんの方にご指導や稽古をいただきました。石巻で過ごした2年間で多くの人と出会い、自分の剣道観が変わってきました。さまざまな発想に刺激を受け、今までとは違う物事の考え方につづいたり、体の使い方、練習方法などを自分なりに工夫することが増えました。

また、石巻北高校剣道部の顧問の一人として生徒と剣を交え、ともに目標を目指して活動してまいりました。必死に練習する剣道部の生徒の姿から、忘れてはいけない大切なことを気付かされることも多くあります。頂いたご指導や稽古、毎日の経験が今回の大会に繋がったのだと思っています。

全日本剣道選手権大会に出場して感じたことは、これから可能性でした。技術を追求し、研鑽を積み重ねていけば、まだ見たことのない景色を見ることができますのではないかと感じて、とても嬉しくなりました。この大会で感じた思いは、これから自分の糧になると確信しております。

今まで、ご指導いただいた先生方のおかげであることはもちろんのこと、石巻での新しい出会いや経験によってさらに背中を押されて、全力で闘うことができましたことに深く感謝しております。今後は、可能性に挑戦し続ける姿勢を持って、精進していこうと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

宮城県石巻北高等学校 武田 直大

## 総務部

### 総務部会の活動 ～1万人寒稽古を通じて～

石巻剣道連盟総務部会は、当連盟理事4名を含む会員10名で構成し、活動しています。

令和2年1月5日(日)『宮城県公立武道館協議会1万人寒稽古』が例年通り盛大に実施されました。剣道は、幼児から一般まで67名もの参加がありました。総務部にとって新年最初の活動ということになります。

参加種目は、剣道だけでなく、柔道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、駄道などがあり、当総務部は、剣道の参加者を募り、取りまとめ、石巻市武道協議会と調整をしながら準備・運営を行っています。

剣道には、共に競い合って、共に成長しようとする精神性が読みとれます。決って一人では成り立ちませんし、対戦者にも敬意を表し『敵』と言う呼び方はせず『お相手』という表現をします。今年も、心ある指導者の皆様や保護者の皆様の支えがあり盛大な中でスタートを切ることができましたことを、心より感謝申し上げます。

あいにく、3月は、新型コロナウィルスの感染予防・拡大防止のために中止になってしまった行事がほとんどだと思いますが、剣道の特性を十分に發揮し合い、力を合わせて活動して行ければ幸いに思います。

剣道関係者の皆様、保護者の皆様、いつもありがとうございます。今後とも変わらず、ご協力いただけますよう、宜しくお願ひいたします。

総務部部長 鈴木 克範



# 嗚呼！石商剣道部

石商剣睦会会長 林 光次郎

「番号」「イチ・ニ・さん・4・ゴ…」夜中の合宿所(教室)に大声が響き渡る。昭和46年夏。人生初めての合宿生活初日。今考えると、当時の部活動はオホーツク海産サケのハラスより脂っこい「ハラスマント」のオンパレードであった。

## ●合宿

当時の石巻商業高等学校は古い木造の校舎で、今の石巻高校の隣(正確に言うなら石商の隣が石高)の丘の上に太平洋に向かい隙間風を友にしてたたずんでいた。小豆色の布団袋に布団を詰め、三々五々合宿所となる教室に同級生が集まってくる。汽車通と市内組が半々ぐらいだろうか？教室の机を後ろに並べ、その上に布団を引き簡易宿泊施設の完成。先輩の布団敷きもおえて、野外の炊飯場に案内される。まさしく野外炊飯場でキャンプ場のそれよりお粗末である。

薪での釜焼き、見たことも触ったこともない。うまく焼けるわけがない。「めっこめし」米からご飯に変身しきれてない代物。ご飯に菜箸で穴をあけ水を足して焼きなおし。おかげも手作りが原則。それでも一週間もたつとある程度作れるようになるから不思議である。それでも、食事のあとは、やかんで沸かした砂糖入麦茶と正露丸をみんなで回し飲みをしていた。

恐怖の夜がやってくる。強豪校ではないので、剣道の稽古はさほど厳しいものではない。問題は夜。ハラスマントの開始である。マイナンバー制度の先取りではなかろうが、1年生に各々番号があてがわれ、夜中に先輩が交代で「番号」と号令。「イチ・二・さん…」誰かが寝ていると「もとい」又号令。「イチ・ニ…」罰ゲーム。男子校の性か？エロ歌の特訓が始まる。その後の人生の宴会で大いに貢献することになるのだが、当時は大変であった。

【メリーサンのヒツジ】の替え歌。【キッコーマンのこども】♪キッコーマンのこども こども キッコーマンのこども キッコーマン 子♪ となる。キッコーマンをウルトラマン・ヤッタマン・スパーマンに替えて一人ずつ大声で歌った後は、【数え歌】の特訓♪一つ出たホイのやさホイのホイ 一人娘とやるときは…♪あれから50年 いまだに覚えている。♪親の承諾えにゃならぬ♪とつづく。いまでも10番まで完璧に歌える。

疲れ果ていつ寝たかもわからぬまま朝起きてびっくり！パンツが真っ赤！【魔の月経】何とも男子校らしいチャーミングな命名だろうか？寝ている間に赤チンキが陰部に塗られている。初体験(?)の時は死ぬかと思うくらい驚いたものである。

兎にも角にも朝が来た。朝飯、麦茶、正露丸を腹に詰めトレーニングと称して日和山へ。先輩は市女高の生徒を探し始める。獲物が見つかると「セキショーファイト」「オウ」「ファイト」「オウ」の掛け声よろしくランニングが始まる。獲物までの距離10メートル【気合掛】市女高の生徒が振り向くまで気合掛「ヤーヤーヤー」勿論獲物は離れていく。その距離20「ヤーヤーヤー」その距離30「セキショーファイト オウ…」ランニング開始。追い越し際に「シジョコーファイト オウ…」一段と声が大きくなり学校に戻る。

いくら強豪校ではないにしろ剣道部。竹刀を握り体育館で稽古。しかし、夜にならない昼はない。ハラスマント開始。試胆会(きもだめし)紙面の都合で次回？

## ●汽車通対市内組

同級生が12人入部。市内組と郡部(汽車通)が半々ぐらい。当時は、街場の我々に比べると肌の色も少し濃い目で、言葉のアクセントも違っていた気がする。初めは反目しあっていたが、先輩からのハラスマントのお陰(?)でいつしか団結力みたいなものが出来上がっていた。

2年生6月。総体が終わると新キャプテンの選出になる。普通なら人間性・技量が秀でているヤツが選ばれるが、我々はあまり稽古をしたくない。よって徒競走で一番遅いやつがキャプテンになることになった。前にも書いたように汽車通は肌の色つやからして、運動神経抜群。市内組も私ともう一人を除いて速い。ダントツの比利の二人。腐っても石商剣道部。「人望」というキーワードがやっと降りてきて、満場一致で私が指名されることになる。

## ●歴代顧問

稽古をしない割に戦績は良かった気がする。先鋒の高橋、大将の宇都宮はほとんど勝っていた。次鋒の遠藤も鍔迫り合いからワザと胴をあけ、下がり胴を打たせるふりして面を打つ。策士。副将の私は「捨駒」と呼ばれて勝てば御の字。負けても大将戦という気楽な立場であった。

「勝って驕らず、負けて悔まず」。佐藤官平範士の口癖だった。我々のころは退職後で直接の指導を受けることはなかったが、大会等での挨拶では必ず「勝って驕らず、負けて悔まず」このフレーズをよく耳にしたことを覚えている。いつも温厚な松川義雄先生。道場で見かけるより、放課後の歓楽街でベージュのハッチに巾着袋をぶらさげて歩く姿をよくお見かけした。部長的な存在だったのかもしれない。その時の顧問が成嶋丈夫先生まだ独身で、福島の彼女に皆で電話したことを見ている。兄貴的な豪快な先生だった。

3年生になる時、国士館大学出身の厳しい先生が商業にやってくるとうわさが流れる。やっと3年生今から天

国と思っていただけに、大いにあせったことを憶えている。就任式の体育館の壇上、ラメの入ったエンジがかった背広を着て、ひときわ声の大きなその人こそ佐藤弘二先生であった。我々は思わず顔を見合わせた。「やばい」。

然し、我々3年生にはとても優しく総体までの2か月、毎週のように練習試合に連れて行ってくれた。総体後、現役を引退してからも本当にお世話になった。総体で宇都宮、高橋が県大会で入賞すると、前顧問の松川、成嶋先生に挨拶に行くように指導してくれたことを思い出す。

でもたまに自宅に遊びに行くと、帰りは必ず外まで見送りに出てくださる。

### ●まとめ

50年近く前のことを思い出しながら書きすすめたわけだが、話を盛り過ぎたかもしれない。木村民男先生たちの学年が中心になって「石商剣睦会」を立ち上げ、今では若い女子卒業生も交えてOB会活動を続けている。石巻商業高等学校剣道部卒業生という誇りを胸に後輩たちを見守っていきたいものである。



2019.3.1 卒業記念及び剣睦会入会式

**鍊士号合格者の横顔**

せき こうじ  
関 弘爾

### 編集後記

新体制となって2年目の広報誌の発行にあたり、お忙しい中寄稿頂きました方々に深く感謝いたします。編集の追い込みをしている中、世の中では新型コロナウィルスの流行により、プロ野球の開幕延期、Jリーグの中止延期、バレーボールの天皇杯中止、卓球世界選手権中止、など各スポーツで大きな影響を受けております。

剣道でも全国高等学校選抜剣道大会や一心堂剣道の戸澤千夏選手が中学女子個人の部で出場予定だった全国スポーツ少年団剣道交流大会も中止になりました。県内でも3月中旬の小学生・中学生の大会は中止になり、特に小学校生活最後となる大会を目指して頑張ってきた小学6年生には大きな衝撃があったかと思います。各道場でも練習を自粛する中、個人個人での素振りなど頑張っている姿も見られます。この悔しさを活動が再開された時に爆発させてもらいたいと思います。

石巻剣道連盟では寄稿頂きました石巻北高校武田直大先生の全日本選手権の活躍を追うように、全国都道府県対抗小学生剣道交流大会へ一心堂の久保琳音選手、久保冬晟選手、湯殿山の初貝儒季選手が宮城県代表として出場、全国道場連盟全国大会へ廣心館の木村楓選手、一心堂の久保選手が出場など、小学生中学生の活躍が素晴らしい1年でもありました。広報部として広報誌やホームページへ結果を掲載できることがとても嬉しい、活動の励みとなっております。

今後とも皆様のご活躍を祈念いたしまして、改めてご協力をいただきました皆様方へ感謝申し上げます。

石巻剣道連盟広報記録部

## 「剣道耕人」の由来

「剣道耕人」は、石巻(旧河北町)が生んだ剣道範士八段武山松五郎先生の遺文である。武山先生は人づくりの重要性を強く認識され、「剣道をもって人を耕す」という信念で剣道の振興発展に尽力された方である。武山先生は常に、指導者は、剣道の事理一致の修業を通じて自らを高めることができ大切であり、剣の理法を修練する中で青少年の身心を耕し、人間形成をはかることが剣道本来の姿であると説かれた。石巻剣道連盟広報誌発刊に当たり、武山先生の御意思である「剣道は人生大道なり、耕は尽くることなし」を継承すべく、広報誌名を「剣道耕人」と命名した。

